

再臨に際して教会を整える

2009年11月29日 アシェル・イントレーター

過去数年間、聖霊は「イエシュア(イエス)の再臨に際し教会を整えよ」と私の心に強く示しておられています。とりわけ国際的なメディアを用いてイスラエル、教会そして終わりの時に関する教えを行うことについて強い示しを受けました。

[ここで私が述べる「教会」について、いかなるキリスト教宗教組織を表すのではなく、草の根的な、真に生まれ変わった、霊に満たされた信者たちの諸国の共同体を表します。この集団は「メシアの体」や「メシアの花嫁」と言うこともあります。]

黙示録 19:7「私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時に来て、花嫁はその用意ができたのだから。」

ルカ 1:17「彼こそ、エリヤの霊と力で主の前ぶれをし、父たちの心を子どもたちに向けさせ、逆らう者を義人の心に立ち戻らせ、こうして、整えられた民を主のために用意するのです。」

イエシュアがエルサレムに戻って来られるため、イスラエルに関し終わりの時に霊的な紛争がよりいっそう増加するでしょう。それゆえ、この命令は「終わりの時において、教会を整えてイスラエルと共に立たせよ。」とも言うことができます。王妃エステルのように、教会はユダヤ人と共に立ってジハード(イスラムの聖戦)と反ユダヤ主義に対抗するようテストされます。彼女は「あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、この時のためであるかもしれない。」(エステル 4:14)

主の再臨に際し教会はどの霊的資質を整えなければならないのでしょうか。

1. **清さ**: イエシュアは、清くしみのない花嫁を求めて来られるので、神の民は聖さの中を歩み、神の御言葉の真理に対して一切妥協しないことが求められます。
2. **栄光**: メシアであるイエシュアを通して神との親密な交流を経験することによって、よりいっそう主の永遠なる栄光と力が私たちの中に流れ込み、私たちを通して流れ出すのです。
3. **霊的戦い**: 再臨に至る過程において大いなる戦争や艱難が起こるので、メシアの体は実践的な方法も用いつつ、祈りと預言を用いることなど私たちが行う部分に関して準備万端でなければならず、聖霊の保護によって封印されることが必要です(黙示録 7:3)。
4. **契約**: 聖書的な信仰は単に学問的あるいは哲学的なものではありません。それは契約的なものです。契約とは神と人との双方向の永遠なる神の契約であり、私たちが誠実かつ忠実に歩むよう要求されています。
5. **地を勝ち取る**: イエシュアは再臨され全地を取り戻し、この地から悪魔を追い払われます。ヨシオアの時代、イスラエルの民がイスラエルの地を占領したように、諸国の教会はイエシュアの再臨の際全地を所有するのです。

6. **政治:**最初の復活で死者から甦る者は、イエシュアと共に千年間支配します。今こそ私たちは主と共に支配するために、裁き、権威、識別力、そして政治のための品位特性を培おうではありませんか。
7. **愛によって一致する:**主を愛すれば愛するほど、私たちは主を愛する人々を愛することとなり、それによって和解をもたらし、和解から関係、関係から協力、協力から世界宣教とリバイバルをもたらすのです。

祈りの最新情報

クウェートとドバイでのポール・ウィルバーによる集会コンサート

今週、ポール・ウィルバーはドバイとクウェートで宣教、賛美コンサートを行いました。考えてもみて下さい。メシアニックジャーが二つのイスラム教国家で宣教や賛美をリードするのです。ドバイでは4000人の参加者があり聖霊のご臨在は力強いものでした。ポールは、これは中近東における突破口であると語りました。多くの人が救いを祈るため前に出てきました。ポールと共に、より多くが救われ、それが持続することをお祈り下さい。

今週はまたドバイにおいて金融危機が発生し、政府が支援する金融組織は、600億ドルの負債の返済が不可能であると発表しました。この発表は衝撃をもたらし、多くのヨーロッパ系金融市場において株価が急落しました。

ハワード・バス師とベエルシェヴァ

イスラエルのヘブライ系新聞社の中で第二位であるマアリヴ誌は、週末誌の付録において見開きいっぱいにハワード・バス師と、ベエルシェヴァのコングリゲーションに超正統派が攻撃してきたことを掲載しました。記事は中立的に書かれ、それはイスラエルのメシアニック共同体にとっては肯定的な一歩となりました。どうか無数の読者たちに光とイエシュアの愛が彼らの証を通して輝きますようお祈り下さい。

国際祈りの家でのリバイバル

IHOP-KC(国際祈りの家カンサス本部)にいる私たちの友人は神の驚くべき接触を経験しています。どうかニュースや動画(www.ihop.org)をご覧下さって、リバイバルが確かに始まっていることをお確かめ下さい。それがイスラエルでも起こるよう、続けて祈ろうではありませんか！

イスラムのジハードについてダニエル・パイプスのコメント

エルサレム・ポストにおいて、ダニエル・パイプスは最近のトルコのエルドアン首相とイランのアフマディネジャド大統領の会談についてコメントしています。現在二種類の「イスラム主義者」がいます。一つ目はアフマディネジャドのように暴力とテロリズムを用います。二つ目はエルドアンのように現在の制度を通して徐々に政治的に乗っ取って行くものです。トルコはイスラム教国家で信教の自由を保障していますが、エルドアンは徐々に過激なイスラム法(シャリーア)を適用しようとしています。

パイプス氏はこう書いています。前者は人々を殺しますが後者はより大きな脅威をもたらします。過去 30 年を振り返り、テロの生存者らがイスラム過激派に屈服することはまれです。1981 年エジプトでのアンワル・サダト大統領の暗殺後においても、9/11 同時多発テロにおいても、2002 年のバリ島での爆破、2004 年のマドリード爆破、2005 年のアンマンでの爆破、またはイスラエル、イラク、アフガニスタンそしてパキスタンでのテロ活動においてもそうでした。テロリズムは殺し、恐れを抱かせますが、現存の体制をひっくり返すことはまれです。

しかし、イスラム主義者らは一般大衆の支持を巧みに勝ち取り、モロッコ、エジプト、レバノンそしてクウェートなどのイスラム教徒が大半を占める国々において最大野党を代表しています。イスラム主義者らは 1992 年アルジェリアで、2001 年バングラディシュで、2002 年トルコで、そして 2005 年イラクで選挙において成功を収めています。権力の座につくと、彼らは国をシャリーアの元に導くことができます。アフマディネジャドが路上で反対運動を行うイラン人の怒りに接し、ビン・ラディンが洞窟に隠れている中、エルドアンは一般大衆の支持を得、トルコ共和国を作り替えるのです。